

明石市

国際協力海外レポート

中西 敦士（なかにし あつし）【JICA 青年海外協力隊】

赴任地：フィリピン共和国 ソルソゴン州グバット町
職種：村落開発普及員
赴任期間：2011年3月～2013年3月（予定）



報告者について：

昭和58年生まれ、和坂小学校→白陵中学・高校→慶應義塾大学を卒業、コンサルティング会社に4年間勤めた後、JICA 青年海外協力隊としてフィリピンに赴任しています。

赴任国と活動：

フィリピンは、フィリピン海を挟んで日本と対しており、2010年の最大の輸出入相手国が日本であるという、日本との関係が大変深い国です。また、1942年から1944年の間、日本が支配していたという歴史もあります。

私の所属機関は、首都マニラから南東に約350km離れたルソン島の最南端の州、ソルソゴン州グバット町の町役場です。ソルソゴン州はフィリピンの中でも特に貧困層が多い州と言われています。ここで、村人の収入向上のため、特に日本のお札の原料にもなっている、マニラ麻の販売促進支援を行っています。マニラ麻もまた、戦前に日本人が船舶のロープとして利用するために農園を運営し始めたことから広まった農産物です。



※赴任先の田園風景



※マニラ麻農園



※手芸品の講習会

日々の暮らし：

◆フィリピン式の洗礼?!：

首都であるマニラは既に大都会ですが、隊員が赴任する地は大半が田舎になります。私も類に違わず、田舎でした。

ソルソゴン州グバット町に到着し、まず驚いたのが、料理です。初日の夜に出てきたのが、ヘビを醤油で甘辛く炒めたものでした。蛇皮の模様が皿一面に広がっていました。味は魚と鶏の間くらいの味で、淡白、小骨が多く、少し食べづらかったです。後で聞くと、フィリピン人も怖くてあまり食べないとのことでした。



次に驚いたことは、トイレ事情です。トイレットペーパーが無いのは当たり前で、便座や水洗用タンク、レバーがないものが多くを占めます。トイレの使い方で悩んだのはおそらく幼児の時以来です。中腰のままで足の筋肉を震わせながら使ってみるなど、色々試しましたが、未だしっかりしたスタイルを確立できておらず、現在も模索中です（写真割愛）。

最後に驚いたのが、朝2時から鶏が全力で鳴きはじめることです。ピークは2時間おき、朝2時、4時、6時の3回きます。3回目の6時に諦め起床しています。それ以来、できるだけ鶏肉を食べようと頑張っています。また、鶏は夜8時ごろに寝始めることが分かってきたので、その時間に寝かさないう、ライトで照らすなどの対策をしています。

2011/10/14 JICA 青年海外協力隊員 中西 敦士



おまけ画像：
フィリピンの市民の足
「トライシクル」

任地の様子：(美しい自然の画像のみ)

